

1 以下の文章を読んで次の問いに答えなさい。

人間でもその立派さというものは川と同じではないでしょうか。川の長い流れが河口に行きつくように、人間も生涯の大部分を終えてある地点へ来た時、その人間の過ぎ来し方の在り様が、私などにはどうも問題になるようです。河口が幾ら立派でも、そんなことにはたいてい驚かされません。やはりその人間がそこへ来るまでの長いその人の歴史のあり様が、その人を美しくも醜くも見せますね。私は少し偏屈かも知れませんが、やはり人間というものの立派さをそのように考えたい気持ちですね。

しかし、河口に立ってその川の拡がりを眼に浮かべるように、一人の人間の過去を展望するということは、その人間をよほどよく知らないと出来ないことです。だから立派な人間はこの世に沢山あるでしょうが、なかなかその立派さは人には判らないものだと思います。

数年前のことですが私は東海道線のある大きい駅で、一人の*国鉄駅員が大勢の駅員たちに送られて*二等車に乗り込んで来たのを見たことがあります。

五十年配の見るからにAな顔をしたI中背の人物で、勿論駅員の制服を身に纏っていました。私は初めその駅員は転任するので皆に送られて新しい任地へ向うのだと思っていました。鉄道の関係者が総出で送っているところを見ると、駅長か助役か知らないが、とにかくある程度の地位についていた人物なのでしょう。見送人たちの態度は私に気が付く程控え目と言葉少なでした。列車が動き出すと、駅のホームの他の場所でも、駅員たちが三人四人と整列し、帽子を取って窓から顔を出しているその人物の方へ頭を下げています。

私が、その人物は転任でなくて、停年で職を引いたのに違いないと思ったのは、列車が駅を離れてしまつて、その人物が窓から顔をひつ込め、腰から手拭を出して、そこだけ陽灼けしていない白い額の汗を拭き、そして、直ぐは自分の席に腰を降ろさず、暫く*惘然とした面持で眼を軽く閉じて立っているのを見た時です。

私はふとその時、その人物は泣くなと思いました。と、果して彼は鼻を吸り、小さく畳んだ日本手拭を眼に当てました。そして彼は網棚の鞆の位置を直し席に腰を降ろすと、あとは窓の方へ顔を向けたまま、いつまでも物思いにふけっているBでした。そして二度程手拭を眼に持つて行きました。

私は偶然に一人の停年になった鉄道の職員が職場を引き揚げて行く最後の場面を眼にすることができたのです。2家族はその前日か前々日に郷里にでも引き揚げて行き、彼だけが残つていて大勢の職場の人たちの公の見送りを受けたのでありましょう。

私はその時、その人物を立派だと思いました。いかなる人か全く知りませんが、しかし、いかにも一生を鉄道に捧げた人の、職場からの身の引き方はかくあろうと思われるような、そんな態度でした。切符切りを何年もやり、小さい駅の助役になり、それから徐々に大きい駅へと変つて行つた、そんなその人の過去が眼に見えるようでした。自分の来し方を、見ず知らずの私に展望させるものを、その時のその人物は持っていたのです。決して樹枝を大きく拡げてはいないでしょう。しかし、ただ一本の流れとして、その人物の過去は名もな

い小さい谷川から、ともかく海へ出るまで、流れ続いて来ているのです。私が川が好きだというのも、川というものはどんな川でも、みな海へ出ようとする一途さを持つているからでしょうか。

(井上靖「川の話」による)

*注
国鉄 : 現在のJR線。二等車 : 客車が三等級に分かれていた時代の中等の車両。
惘然 : 失望してぼんやりするようす。

問一 (1) I に入る言葉を漢字二字で答えなさい。

(2) 2 に入る言葉を、文末表現「……でありましょう」を手がかりにして、ひらがな四字で答えなさい。

問二 A、B にそれぞれ当てはまる熟語を次の漢字を組み合わせて作り、解答用紙に書いてねいに書きなさい。

整 律 大 姿 好 心 小 格 義

問三 ①「人にはわからないものだ」と、筆者が思うのはなぜか。「……は……から。」という形になるように三〇字以内で書きなさい。

問四 ②「その人物を立派だ」と、筆者が思ったのはなぜか。次の中から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

A その人物が、家族は郷里にでも引き揚げさせ、彼だけが残つて職場の人たちの見送りを受けていたから。

I その人物は、切符切りを何年もやり、小さい駅の助役から徐々に大きい駅へと出世したと思われるから。

ウ その人物の過去は、名もない小さい谷川から海へ出るまで、樹枝を大きく拡げてはいないと考えるから。

エ その人物が、実直に仕事と向き合ってきた生き様を思わせるようになつた美しい態度だったから。

問五 ③「自分の来し方を、見ず知らずの私に展望させる」というのは、具体的には何を展望させると言っているのか。文中からその内容を述べている部分を過不足なく抜き出し、その始めと終わりをそれぞれ五字ずつ書きなさい。

問六 ④「樹枝を大きく拡げて」は、人間のどんなことをたとえているのか。次の中から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

A じょうずに仕事をやりとげて

イ まとめて一度に仕事をして

ウ さまざまな分野の仕事をして

エ 地道にこつこつ仕事をやって

問七 この文章の最後に一文を加えるとすればどれがよいか。次の中から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自然に自然にと高所から低所へ流れて行く川というものが好きなのです。
イ 私はただ川が好きで、その流れに沿って人より歩いているというだけの話です。
ウ 人間でも川のようなひたむきな流れをその経歴に持っている人は立派です。
エ 私の場合は、人より川の情報や流れの力強さに関心を持っているだけの話です。

問八 この文章を踏まえて、あなたがだれかを「立派だ」と感じたエピソードと「立派だ」と感じた理由、そのことからあなたはどのようなところに「人間の立派さ」を感じるかという点について、一七〇字以上二〇〇字以内で書きなさい。（一マス目から書き始め、途中で改行はしないこと。）

2 以下の文章を読んで、次の問いに答えなさい。

明治以降、外国語、外国文化にふれた日本人を苦しめた問題のひとつに、日本語は論理的でないというかくれた命題があった。

外国の文章を訳してみると、わけのわからない日本語になる。うまく筋が通らない。原文はそんなことがないのだから、日本語がいけない。論理的でないからだと考えたのである。外国はすすんでいる、日本はおくれている、というコンプレックスでこり固まっている人間がそう速断するのは是非もないことであった。後進文化の悲哀である。

外国語が独立言語なら、日本語もりっぱに独立した言語である。外国語にある論理が、日本語にない、というのは、ありうるのか、と反問するのが当然である。それを百年間、怠^{おこた}って、日本語は非論理的なり、と勝手にきめてしまってきた。さすがにはっきり断言する勇氣もないから、ひそかに、思いわずらってきたのである。

すこし外国語の勉強をすれば、いやでも日本語との違いがはっきりする。イギリス人がフランス語を学ぶのに比べて、日本人が英語を学ぶのははるかに大きな壁がある。そのはげしさにおどろいて、日本人は気が弱くて日本語がいけないのだと思ってしまう。

ことばが通じるのは、論理によるのである。まるで論理のないのは、オウムのことばは別として、ことばではない。日本語は昔から人々が使ってきた不自由がなかったばかりか、和歌とか俳諧^{はいかい}という世界に類のない文芸を発達させてきたのである。わけのわからぬ言語であったりするわけがない。

しかし、英語、ドイツ語と比べてみると、日本語はいちじるしい特性をもっているのも事実である。論理にしても、ヨーロッパ語の論理とは、打って変わった論理をもっている。それで何不自由することなく千年の文化を育んできたのである。論理がない、などということがあつてはならない。日本語の論理があるに違いない。ただ、ひどく異なっている。どこがどう違うか、とくと考える必要があつたのに、外国の*文物^{ぶんぶつ}を吸収するのに多忙^{たぼう}であつた近代日本はそれを試みようとしなかった。

日本語にも日本語の論理がある。ただし、それはヨーロッパ語と大きく性格を異にする。それくらいのは、すこし外国語の勉強をすれば、大学生にだってわかることである。それを明治以降の日本の知識人は考えようとしなかった。

もっとも目につきやすい違いは、連続^②と非連続の差である。ヨーロッパ語での論理は、直線のようなもの、切れ目や曲がりがあつてはまずい。それに対して、日本語の論理は、点的である。つながっていない。飛躍^{ひやく}する。一列にならんでいる点ではおもしろくない。適当に散らばっている。そういうことばの受け手は、その点を適当に結びつけて、意味、論理をとらえるようになっていく。受け手に高い理解力を想定している。大人の論理である。ことばにはチンプンカンプンだが、意味がないのではない。点と点の結合は受け手の判断によるから、ことばの意味はさまざま、極端^{きくたん}なことを言えば、受け手の数と同じくらいの解釈^{かいしやく}がありうる。受け手尊重のことばであり、受け手を信頼^{しんらい}し、受け手に委託^{いたく}する論理である。絶対的論理というものは否定されていて、相手によって揺れる。

その点で日本語論理は、ソフトで融通^{ゆうつう}がきき、平和的である。ヨーロッパ語でも、外交官の用いることばは、ソフトで相手を立てるところは、日本語の論理にささやかながら似ている。外交辞令などと言われるけれども、外交官のことばは一般^{いっぱん}のことばより洗練^{せんれん}されていることは否定できないだろう。日本語はその外交官のことばよりさらに円熟^{えんじく}、昇華^{しょうか}している

と言っても差し支えないだろう。

③ 日本語の非論理性を日本人が恥じるのはむしろ滑稽である。外国から非難されたら、適当な*アポロギアをお返ししてよい。母国語をおとしめて喜ぶのは幼稚な人間である。

論理的でないというのは、日本人が勝手に思い込んで恐縮しているようなところがあるけれども、日本人の言うことはあいまいであるという非難ははっきり指摘されるのである。ここでも、日本人はすみません、と恐縮して、いることが多い。

(中略)

あいまいなことはソフト、柔軟な意味をもっていて、受け手の都合に合わせて意味が変わりうる。あいまいなことはではケンカできないが、うまく折り合いのいかない問題などは、あいまいなことはで決着することができる。

労働争議などで、*労使とも、それぞれの主張をギリ押ししている間は、解決のいと口も見えないが、双方が歩みよって、双方の都合に合わせて解釈できる、玉虫色の合意によって解決することがすくなくない。どちらも、勝った、と胸を張ることができる。玉虫色解決は、あえて明晰な論理をさせて、争いを収束する知恵である。論理が攻撃的であるとすれば、あいまいは、親和的である。

ヨーロッパでは、ギリシャの昔から、あいまいは目の仇にされてきた。ギリシャ人は明晰さを尊重し、あいまいを悪魔的と考えた。ギリシャを文化の源泉と考える近代のヨーロッパにおいて、あいまいさが嫌われるのは当然である。

(中略)

日本はいまいの美学の先進国であるけれども、依然として、あいまい性をどこか恥じる西欧的感性を身につけていて、あいまいの美学もさしたる進展を見せていない。

あいまいの美学は、受け手、相手尊重を基盤にしている。相手を重んじるならば、わかり切ったことを表現することは礼を失することになる。あえて、ボカして、相手の見方に委ねる。まさか、変なことにはなるまい、という信頼が前提である。わけ知りの人のことばのおもしろさは、あいまいさから生まれる。⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱

——⑥「日本人にもはっきりした意味をとらえることの難しい俳句が、世界的になろうとしているのは、きわめて暗示的である」とあるが、これはどういうことか。次の中から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日本語の持つあいまい性は西欧諸国のあいまいさを嫌う感性からすると使いづらい言語であるが、受け手の都合に合わせて意味が変わりうる俳句が、様々な言語に翻訳^{ほんやく}されているのを見ると、日本語が世界共通言語になる日も近いということ。
イ 日本語はあいまいな言語とされ西欧的感性からすると嫌われてきた言語だが、あいまいさを美徳とする俳句が世界的に広まりつつあるのは、日本語の持つあいまい性が様々な文化を受け入れやすい性格を持っていることの表れであるということ。

ウ 日本語を使う日本人は世界的に見ても親切と評されることが多く、俳句もそのような友好的な性質を反映したものであるため世界の様々な文化圏^{けん}の中でも受け入れられやすい面をもっており、あいまい性が他言語に取り入れられる可能性もあるということ。

エ 洗練された言語である日本語を使う日本人でさえも解釈^{かいしやく}が難しい俳句が、そっくりそのまま他言語に翻訳されただけでは理解することなど到底^{とうてい}考えられないのに、世界に広まりつつあるというのは日本語が大きな可能性を秘めているということ。

③ 次の文を意味する外来語を全てカタカナで答えなさい。

- ① 自ら進んで社会事業などに奉仕^{ほうし}する人。
- ② 各個人の私生活上の自由。個人情報。
- ③ 資源を回収して別の形に再生し利用すること。
- ④ 経済や産業の発展につながる発明や新技術。

3

2

問七

問六

問四

問五

問三

問二

問一

③

①

④

②

Y

X

A

B

20



↓ここにシールを貼ってください↓

受験番号				
I	A			

氏 名	得 点